



病院長  
奥田 伸樹

## どんな状況でも進化は止めない 新しい市民病院

新型コロナウイルス感染症は、いまでも衰えることを知らず、私たちの暮らしは劇的に変化してしまいました。市民病院では、2020年4月に初めて院内で感染者が判明し、感染拡大を防ぐため、外来診療の休止や新規入院の停止などを行いました。

突然の事態に戸惑いながらも、毎日感染対策会議を開き、感染状況の把握に努めました。有熟者のテント設営では、自主的に医師、医療職員、事務職員が集まり設営準備を行い、来院患者受付、入院患者さんの荷物搬送など職種や部門を越えて協力しながら対応を進め難局を乗り切ることができました。

市民病院は、このコロナ禍の変化に対応するため、地域のため、そして病院を利用する人たちのため生まれ変わろうとしています。

問 市民病院医事経営課  
☎ 48-5050





1



2



3



4

1. 臨時的に防災テントを設営し有熱患者の診療に当たった（当時） 2. 病院ガレージで有熱患者の検体採取を行う様子  
3. 新しい取り組みとして導入したAI問診の端末 4. 亀岡病院長と公式イメージキャラクターのハナちゃん

### 高い感染対策意識

パンデミックは、社会全体からみればある種の災害と言えます。しかし、医療従事者からみれば、感染症対策は自分たちの「本業」です。自然災害とは異なり、ウイルスや防疫に対する知識を持っており、対処法を知っています。

- ① 院内で感染をさせない
  - ② 感染を院外に広げない
  - ③ 外から新たに感染を持ち込まない
- の3つを原則に、医療の現場のプロフェッショナルとして恐れず、正しい知識の基に敢然と立ち向かうことを職員へお願いしてきました。

### 「コロナ禍での新しい取り組み

日常生活では「新しい生活様式」が定着しました。病院でも新しい取り組みを実施してきました。

感染対策として、入院患者さんの面会制限をさせていただいているため、画面越しではありますが、顔を見て、声を聞くことができるようタブレットを利用したオンライン面会を実施しています。

また、診察待ち時間の短縮、問診の効率化を図ることを目的にAI問診を導入しました。通院が難しい患者さんへ来院時と変わらない医療をご提供できるようオンライン診療の導入も検討しています。

今後も患者さんにとって最良の方法をいち早く取り入れていきたいと考えています。

### 生まれ変わる病院

4月から来年7月にかけて病棟の改修工事を行います。具体的には、病室の壁紙を変えて全体の印象を明るくし、さらに4人部屋の広さのまま3人部屋へ作り変えます。これにより、パソナルスペースが広がり、より快適な療養環境の中で治療に専念していただけるようになります。

さらに、個室トイレや病棟の共用トイレを作り変え利便性を図るほか、HCU（高度治療室）を備えた病棟を新たに設け、治療、手術後の患者さんへの手厚い医療、看護に対応できるようになります。

### 地域と共に歩む

当院の強みは、最速で最大限の医療を患者さんに届けることができることです。充実した医療設備がありますので、高度な精密検査ができ、専門医による迅速な診断が可能です。手術が必要な場合には、最短で予定を組み、大きな病院よりも短い待ち時間で手術を受けることができます。これは大きな魅力です。

地域の皆さんに寄り添う医療を大切に、地域の中核病院としてこれからも安心して利用していただけるよう努めてまいります。

### 市民病院ホームページ

